

2022年3月期 決算説明会

2022年4月27日
株式会社オリエンタルランド

プレゼンター

株式会社オリエンタルランド
取締役副社長執行役員
経理部管掌
片山 雄一

I. 決算概要

1. 2022年3月期におけるパークのオペレーションについて

入園者数

ゲスト・キャストの安全・安心を最優先に、「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（以下、ガイドライン）や、政府・自治体からの要請を踏まえてチケット販売数の上限を設定



2022年3月期に実施した主な施策

	コンテンツ	時期	主な効果
チケット	変動価格制を4段階に変更	10/1～	② + ③
	「アーリーエントリーチケット」のトライアル	4/1～5/16、11/1～	① + ② + ③
	「ハロウィーンモーニング・パスポート」の販売	10/25～10/29	② + ③
	イベント・プログラムなどの実施・再開*	随時	① + ② + ③
	非来園ゲストが東京ディズニーリゾート・アプリで商品を購入できるサービス	～12/12	② + ③
	モバイルオーダーのトライアル	4/19～4/25	② + ③

*Appendix P28をご参照ください。

入園者数の制限がある中でも体験価値や売上に寄与する施策を実施

1. 2022年3月期におけるパークのオペレーションについて

当期も、ゲスト・キャストの安全・安心を最優先に、「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」や、政府・自治体からの要請を踏まえてチケット販売数の上限を設定しました。

パークの運営に制限がある中でも、ご覧の通り、体験価値や売上の向上に寄与する施策につきましては、できる限り実行しました。各施策は上の三つの輪のとおり、入園者数と宿泊者数、チケット・商品・飲食販売収入、体験価値のいずれか、もしくは複数の効果を実現しています。

これらの施策を通して、ゲストの新たなニーズや、効率的な運営方法を検証することができましたので、次期中期経営計画に生きる効果的な施策であったと考えています。

2. 当期実績(前期比較)

(億円)

連結損益計算書

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高	1,705	2,757	1,051	61.6%
テーマパーク事業	1,342	2,185	842	62.8%
ホテル事業	286	474	188	65.7%
その他の事業	76	97	20	27.0%
営業利益（損失）	△ 459	77	537	-
テーマパーク事業	△ 419	25	444	-
ホテル事業	△ 19	62	81	-
その他の事業	△ 23	△ 13	10	-
経常利益（損失）	△ 492	112	604	-
特別利益	-	4	4	-
特別損失	185	-	△ 185	-
税金等調整前当期純利益（純損失）	△ 678	116	795	-
親会社株主に帰属する当期純利益（純損失）	△ 541	80	622	-

入園者数の増加などから売上高が増加し、黒字に転換

4

2. 当期実績（前期比較）

当期実績は、入園者数の増加などから、売上高が増加し、黒字に転換しました。

2. 当期実績(前年同期比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業①

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高 (億円)	1,342	2,185	842	62.8%
入園者数 (万人)	756	1,205	449	59.5%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	13,642	14,834	1,192	8.7%
チケット収入	6,538	7,049	511	7.8%
商品販売収入	4,122	4,548	426	10.3%
飲食販売収入	2,982	3,237	255	8.6%

入園者数の増

- ・入園者数の制限緩和による増
- ・前期第1四半期のテーマパークの臨時休園による増

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・チケット収入の増
 - 変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増
- ・商品販売収入の増
 - 東京ディズニーシー20周年関連商品の増
 - グッフィー関連商品の増
- ・飲食販売収入の増
 - 東京ディズニーシー20周年関連メニューの増
 - 店舗営業再開による喫食機会の創出による増

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増により売上高が増加

2. 当期実績 (前期比較)

テーマパーク事業の売上高は、842億円増の2,185億円となりました。

入園者数は、政府・自治体からの要請内容の緩和に加え、前期は第1四半期に臨時休園をしていたことから、増加しました。

ゲスト1人当たり売上高は、1,192円増の14,834円となりました。


チケット収入は変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増により増加しました。

商品販売収入は、東京ディズニーシー20周年やグッフィー関連商品などにより、増加しました。

飲食販売収入は、東京ディズニーシー20周年関連メニューの増加や店舗の営業再開による喫食機会の創出などにより、増加しました。

2. 当期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業② 	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高	1,342	2,185	842	62.8%
営業利益(損失)	△ 419	25	444	-

営業利益の増

(億円)

売上高の増		諸経費の増	△ 24
商品・飲食原価率の減	90	前期の特別損失への振替	△ 32
人件費の増	△ 125	メンテナンス費用の減など	8
前期の特別損失へ振替	△ 108	減価償却費の増	△ 56
正社員人件費の増	△ 38	前期の特別損失への振替	△ 72
準社員人件費の減	26	その他	16
その他	△ 4		

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

前期の臨時休園に伴う費用の振替(特別損失)がなくなったため、各費用が増加したものの、売上高の増加により黒字に転換

6

2. 当期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、前期の特別損失への振替により各費用が増加したものの、売上高の増加により、444億円増加し、25億円となりました。

前期の臨時休園による特別損失への振替による営業費用の増がありましたので、それ以外の要因をご説明します。

商品原価率は、前期に臨時休園に伴い在庫を廃棄したことで当期は減少し、飲食原価率は、売上高の増加に伴い、製造人件費率などが低下したため、商品・飲食原価率はともに減少しました。

人件費のうち、準社員人件費は、準社員の人数が減少したことなどにより、減少したものの、正社員人件費は、前期に賞与を減額したため、当期の人件費は増加しました。

諸経費は、前期に東京ディズニーランド大規模開発エリアがオープンしたことで、投資振替経費が増加したため、当期のメンテナンス費用が減少しました。

減価償却費は、前期の臨時休園による特別損失への振替以外の要因をご説明しますと、東京ディズニーランドのファンタジーランド・フォレストシアターのオープンなどによる増加があったものの、償却方法の変更により、減少しました。

2. 当期実績(前年同期比較) – 主な増減要因

(億円)

ホテル事業	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高	286	474	188	65.7%
ディズニーホテル	255	437	181	71.0%
その他ホテル	30	37	6	21.2%
営業利益(損失)	△ 19	62	81	-

売上高の増

- ・前期一部期間、臨時休館をしていたことによる宿泊収入の増

営業利益の増

- ・売上高の増
- ・人件費の増(△ 45億円) – 前期の特別損失への振替
- ・減価償却費の増(△ 5億円) – 前期の特別損失への振替

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

前期の一部期間、臨時休館していたことにより増収、営業利益を計上

その他の事業	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高	76	97	20	27.0%
営業利益(損失)	△ 23	△ 13	10	-

売上高の増

- ・前期の一部期間臨時休業していたことによる、イクスピアリ事業の増
- ・前期の一部期間テーマパークが臨時休園していたことによる、モルルール事業の増

営業損失の減

- ・売上高の増

イクスピアリ事業、モルルール事業の増収により営業損失が改善

2. 当期実績(前年同期比較) – 主な増減要因

ホテル事業の売上高は、

前期は一部期間、臨時休館していたことなどから、当期は宿泊収入が増加し、188億円増の474億円となりました。

営業利益は、各費用で前期の特別損失への振替による増があったものの、売上高の増加により、81億円増加し、62億円となりました。

その他の事業は、前期は、一部期間、イクスピアリが臨時休業していたことや、テーマパークが臨時休園していたことによりモルルール事業の売上高が減少したことから、売上高が20億円増の97億円、営業損失は、10億円減の13億円となりました。



3. 当期実績(1月発表予想比較)

当期第4四半期の入園者数の制限について

	1月	2月	3月
業績予想の前提		1/21~2/13 まん延防止等 重点措置	
	~1/20 ガイドラインの範囲内で 段階的にチケット販売 数を引き上げ	1/21~ 1日1パーク2万人	
実際のオペレーション		1/21~3/21 まん延防止等重点措置	
	~1/20 ガイドラインの範囲内で 段階的にチケット販売 数を引き上げ	1/21~ 2/28 1日1パーク2万人	3/1~ キャパシティの50%以下まで 段階的に引き上げ

3月以降、制限が緩和され、テーマパーク入園者数が予想を上回った

8

3. 当期実績 (1月発表予想比較)

まず、第3四半期に業績予想を修正した際の入園者数の前提からご説明します。

1月21日にまん延防止等重点措置が発出されましたが、千葉県からの協力要請を踏まえ、当初期限とされていた2月13日までは1日1パーク2万人と想定していました。また、それ以降についても、政府の事務連絡においてチケット販売について慎重を期すよう求められていたため、3月いっぱいには2万人以内でのパーク運営を行う前提で、予算を策定しました。

実際は、まん延防止等重点措置期間中に千葉県との個別協議の結果、収容率の50%を超えない範囲内で入園者数の制限を緩和することが認められたため、3月1日より入園者数を1日1パーク2万人から段階的に引き上げることができました。その結果、入園者数が予想を上回りました。

3. 当期実績(1月発表予想比較)

(億円)

連結損益計算書	2022年3月期 1月発表予想	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高	2,619	2,757	137	5.3%
テーマパーク事業	2,060	2,185	124	6.1%
ホテル事業	463	474	10	2.3%
その他の事業	94	97	2	2.6%
営業利益(損失)	△ 76	77	153	-
テーマパーク事業	△ 114	25	139	-
ホテル事業	49	62	12	24.2%
その他の事業	△ 15	△ 13	2	-
経常利益(損失)	△ 62	112	175	-
特別利益	-	4	4	-
税金等調整前当期純利益(純損失)	△ 62	116	179	-
親会社株主に帰属する当期純利益(純損失)	△ 58	80	139	-

入園者数が予想を上回ったことなどにより、通期で黒字に転換

9

3. 当期実績(1月発表予想比較)

主に入園者数が予想を上回ったことに加え、各費用が減少し、通期で黒字に転換しました。

1月に発表した業績予想との比較の詳細につきましては、Appendixの23ページから25ページをご参照ください。



II. 2023年3月期 業績予想

II. 2023年3月期 業績予想

1. 業績予想の前提

2024中期経営計画では、1日の入園者数の上限を新型コロナウイルス感染症流行前より引き下げて体験価値向上を目指す、適切な上限を検証する必要があり、段階的に上限を見直していく方針（「2024中期経営計画」参照）

入園者数	【2023年3月期の予想で考慮した要素】			
	<ul style="list-style-type: none"> ● 足もとの外部環境 ● 「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（令和4年3月22日改訂）に沿って4月25日からソーシャルディスタンスを緩和し、入園者数の上限を段階的に引き上げる <small>✓ 求められるソーシャルディスタンスが、「1m以上」から「前後左右ともに人と人が触れ合わない距離」に変更</small> ● 運営体制の整備を推進 			
	<table border="1"> <tr> <td>ゲスト1人当たり売上高</td> <td>体験の収益化による向上を目指す</td> </tr> <tr> <td>コスト</td> <td>入園者数水準の向上に伴い増加するものの、不要不急のコストの精査を継続</td> </tr> </table>	ゲスト1人当たり売上高	体験の収益化による向上を目指す	コスト
ゲスト1人当たり売上高	体験の収益化による向上を目指す			
コスト	入園者数水準の向上に伴い増加するものの、不要不急のコストの精査を継続			

ソーシャルディスタンスを緩和しているものの、急激な回復は見込まず、上限を段階的に引き上げていく

1. 業績予想の前提

このあとご説明する2024中期経営計画では、1日の入園者数の上限を新型コロナウイルス感染症流行前より引き下げて体験価値の向上を目指しますが、中期経営計画期間中に適切な上限を検証する必要があると考えており、段階的に上限を見直していく方針です。

足もとは、外部環境が不透明です。また、3月22日付で改定された「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って4月25日からパーク内のソーシャルディスタンスを緩和し、入園者数の上限を段階的に引き上げるための、運営体制に向けた整備を推進しています。これらを総合的に踏まえ、2023年3月期の入園者数の予算は2,000万人としています。

ゲスト1人当たり売上高につきましては、引き続き、体験の収益化による向上を目指します。コストにつきましては、人件費や諸経費などが入園者数水準の向上に伴い増加するものの、不要不急のコストの精査は継続します。

1. 業績予想の前提

2023年3月期に予定されている主なコンテンツ*1

事業	コンテンツ	時期*2
テーマパーク	「東京ディズニーシー®20周年：タイム・トゥ・シャイン！」を開催	～9/3
	東京ディズニーシー新規ナイトタイムエンターテイメント「ビリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～」を導入	2023年3月期中
ホテル	「東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリー®ホテル」を開業	4/5
その他	舞浜アンフィシアターで、劇団四季がディズニーミュージカル『美女と野獣』を公演	10/23～



「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」
(デコレーション)



「ビリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～」



「東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテル」(ロビー)

©Disney/Pixar
SCRABBLE is a registered trademark of Mattel, Inc.
Trademark and game tiles used with permission. © Mattel, Inc. All Rights Reserved

*1 そのほかのコンテンツについてはAppendix P29をご参照ください。

*2 時期は変更になる場合があります。

東京ディズニーリゾート全体で魅力的なコンテンツを提供

1. 業績予想の前提

2023年3月期においても、東京ディズニーリゾート全体で、体験価値の向上に寄与する魅力的なコンテンツを用意していますので、ご紹介します。

テーマパークでは、引き続き今年9月まで「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」を開催しており、当期中に東京ディズニーシーで新規のナイトタイムエンターテイメントを導入する予定です。

また、今月無事に「東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテル」を開業し、多くの方からご好評をいただいています。

舞浜アンフィシアターでは10月から、劇団四季によるディズニーミュージカル「美女と野獣」の公演が始まる予定です。これにより、2020年4月に東京ディズニーランドにオープンしたディズニー映画『美女と野獣』をテーマにしたエリアをよりお楽しみいただけることに加え、宿泊滞在の促進にも繋がると考えています。

連結損益計算書	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減	増減率
売上高	2,757	4,079	1,321	47.9%
テーマパーク事業	2,185	3,277	1,092	50.0%
ホテル事業	474	681	206	43.6%
その他の事業	97	120	22	23.5%
営業利益(損失)	77	502	425	549.8%
テーマパーク事業	25	372	347	-
ホテル事業	62	131	69	111.9%
その他の事業	△ 13	△ 4	8	-
経常利益(損失)	112	506	393	348.7%
特別利益	4	-	△ 4	-
税金等調整前当期純利益(純損失)	116	506	389	332.5%
親会社株主に帰属する当期純利益(純損失)	80	352	271	336.8%

入園者数の増加により、増収増益を見込む

従来の開示（2022年3月期まで）

売上高（億円）
入園者数（万人）
ゲスト1人当たり売上高（円）
チケット収入
商品販売収入
飲食販売収入



対象
● パークチケット （ハロウィーンモーニング・パスポートを含む）
● アーリーエントリーチケット

今後の開示（2023年3月期から）

売上高（億円）
入園者数（万人）
ゲスト1人当たり売上高（円）
アトラクション・ショー収入
商品販売収入
飲食販売収入



対象
● パークチケット （ハロウィーンモーニング・パスポートを含む）
● アーリーエントリーチケット
● 体験の収益化 （東京ディズニーリゾート・パッケージの 有償コンテンツを含む）

ゲストの選択肢を増やすことで体験価値の向上を目指すにあたり、開示内容を変更

2. テーマパーク売上高の開示内容の変更について（参考）

業績予想の詳細をご説明する前に、
今後の方針に伴って開示内容を変更した点がありますので、ご説明します。

従来、ゲスト1人当たり売上高のうち、
パークチケットやアーリーエントリーチケットについて「チケット収入」として開示してきましたが、
ゲストの選択肢を増やすことで体験価値の向上を目指すにあたり、
「アトラクション・ショー収入」として開示することとしました。
従来から検討を進めてきた体験の収益化は、この項目に計上する予定です。

なお、これまでチケット収入に含まれていなかった
東京ディズニーリゾート・パッケージの有償コンテンツについても、
今後はアトラクション・ショー収入に組み入れます。

2. 通期予想(前期比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業①

	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減	増減率
売上高 (億円)	2,185	3,277	1,092	50.0%
入園者数 (万人)	1,205	2,000	795	65.9%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	14,834	14,318	△ 516	△ 3.5%
チケット収入 / アトラクション・ショー収入*	7,049	7,446	397	5.6%
商品販売収入	4,548	3,865	△ 683	△ 15.0%
飲食販売収入	3,237	3,007	△ 230	△ 7.1%

入園者数の増

- ・入園者数の制限緩和による増

ゲスト1人当たり売上高の減

- ・チケット収入 / アトラクション・ショー収入の増
 - － 体験の収益化による増
 - － 変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増
- ・商品販売収入の減
 - － 前期の一時的な増加による減
- ・飲食販売収入の減
 - － 入園者数増加によるテーブルサービス店舗の利用構成比の減

* 2022年3月期実績はチケット収入、2023年3月期予想はアトラクション・ショー収入です。

ゲスト1人当たり売上高は減少するものの、入園者数の増加を見込む

2. 通期予想(前期比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、1,092億円増の3,277億円となる見込みです。

入園者数につきましては、先のご説明のとおり、急激な回復は見込まず、段階的に引き上げる想定で、795万人増の2,000万人を見込んでいます。

ゲスト1人当たり売上高は、516円減の14,318円となる見込みです。

アトラクション・ショー収入は、東京ディズニーリゾート・パッケージの有償コンテンツを組み込んだことを除くと、当期導入予定の体験の収益化に加え、変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増により、前期を上回る見込みです。

商品販売収入は、前期は2020年度に販売できなかった商品を販売し、好調でしたが、当期は外部環境などを踏まえて、発注量を絞った予算を策定しました。

飲食販売収入は、入園者数増加に伴うテーブルサービスの利用率の減少などにより、前期を下回る見込みです。

2. 通期予想(前期比較) – 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業②	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減	増減率
売上高	2,185	3,277	1,092	50.0%
営業利益(損失)	25	372	347	-

営業利益の増

(億円)

売上高の増		諸経費の増	約△ 160
商品・飲食原価率の増	約△ 30	メンテナンス費の増	約△ 35
人件費の増	約△ 155	販売促進費の増	約△ 25
前期の雇用調整助成金*の減	△ 72	システム関連費用の増	約△ 20
準社員人件費の増	約△ 55	エネルギー費の増	約△ 15
正社員人件費の増	約△ 15	その他	約△ 65
その他	約△ 10	減価償却費の増	約△ 28
		新規資産の取得による増など	

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。
*雇用調整助成金の受給金額(見込み受給金額含む)を営業費用から控除していました。

入園者数の増加に伴い各費用が増加するものの、増収増益

16

2. 通期予想(前期比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、347億円増加し、372億円となる見込みです。

商品・飲食原価率は、外部環境による原材料の高騰により約30億円の増を見込んでいます。

人件費は、当期は雇用調整助成金の受給を見込んでいないことに加え、入園者数の増に伴う労働時間の増により準社員人件費が増加、賞与計上差額により正社員人件費が増加することなどから約155億円の増を見込んでいます。

諸経費は、メンテナンス計画を精査し、前期のメンテナンス費を後ろ倒ししたことによる増加、入園者数増加に伴う販売促進費の増、環境改善と業務効率化に向けたパークとバックオフィスのシステム改善によるシステム関連費用の増、原油価格高騰に伴うエネルギー費の増などにより、約160億円の増を見込んでいます。

減価償却費は、「ビリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～」の導入や、前期に休止していた施設の減価償却費を営業外費用に振り替えていたことなどにより、約28億円の増を見込んでいます。

2. 通期予想(前期比較) – 主な増減要因

(億円)

ホテル事業	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減	増減率
売上高	474	681	206	43.6%
ディズニーホテル*	437	606	168	38.6%
その他ホテル	37	75	38	103.1%
営業利益(損失)	62	131	69	111.9%

売上高の増

- ・東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業による増
- ・客室販売数の増による宿泊収入の増

営業利益の増

- ・売上高の増
- ・人件費の増 (約△15億円) – 賞与計上差額、準社員人件費の増
- ・諸経費の増
- ・減価償却費の増 (△13億円)

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。
*2023年3月期より東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルを含みます。

東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業などにより増収増益

(億円)

その他の事業	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減	増減率
売上高	97	120	22	23.5%
営業利益(損失)	△13	△4	8	-

売上高の増

- ・乗降客数の増によるモルレル事業の増
- ・不動産賃料収入の増によるイクスピアリ事業の増

営業損失の減

- ・売上高の増
- ・諸経費の減

モルレル事業とイクスピアリ事業の増収により、営業損失が改善

17

2. 通期予想(前期比較) – 主な増減要因

ホテル事業は、

4月5日の「東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテル」の開業などにより

売上高は206億円増の681億円、営業利益は69億円増の131億円を見込んでいます。

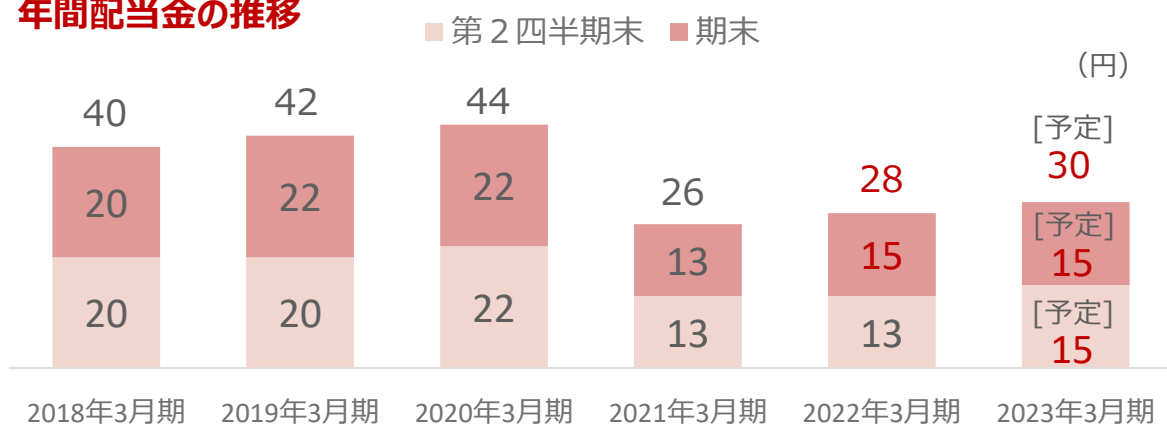
その他の事業は、テーマパーク入園者数の増加に伴う、モルレル事業の売上高の増加に加え、

不動産賃料収入の増加によるイクスピアリ事業の売上高の増加により、

売上高は22億円増の120億円、営業損失は8億円減の4億円を見込んでいます。

- 2022年3月期の通期業績が予想を上回ったため、期末配当金を前年同期から2円増配
- 2023年3月期の年間配当金は1株当たり30円を予定

年間配当金の推移



通期の業績が黒字に転換し、期末配当金を2円増配

3. 配当について

当社グループは、株主の皆様への利益還元を経営の重要政策の一つとして認識しており、安定的な配当を目指しています。

この方針のもと、通期の業績が予想を上回ったため、期末配当金を前年同期から2円の増配となる1株当たり15円、年間配当金を28円とすることとしました。

なお、来期の年間配当金につきましては、さらに2円増配となる1株当たり30円を予定しています。

Appendix

(億円)

連結損益計算書	2021年3月期 前年同期	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高	334	854	519	155.2%
テーマパーク事業	251	695	444	176.7%
ホテル事業	64	130	66	102.4%
その他の事業	18	27	9	49.1%
営業利益(損失)	△ 261	93	354	-
テーマパーク事業	△ 235	76	312	-
ホテル事業	△ 15	19	34	-
その他の事業	△ 10	△ 2	8	-
経常利益(損失)	△ 273	112	386	-
特別利益	-	4	4	-
特別損失	52	-	△ 52	-
税金等調整前四半期純利益(純損失)	△ 326	117	443	-
親会社株主に帰属する四半期純利益(純損失)	△ 254	92	346	-

入園者数の増加などにより増収増益

(億円)

テーマパーク事業 	2021年3月期 前年同期	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高	251	695	444	176.7%
営業利益(損失)	△ 235	76	312	-

売上高の増

・入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増

営業利益の増

		(億円)	
売上高の増		諸経費の増	△ 7
商品・飲食原価率の減	102	システム関連費用の増	△ 4
人件費の増	△ 49	エネルギー費の増など	△ 3
前期と当期の雇用調整助成金*の受給差額	△ 27	減価償却費の減	13
正社員人件費の増	△ 18	償却方法変更による減など	
準社員人件費の増など	△ 3		

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。
*雇用調整助成金の受給金額(見込み受給金額含む)を営業費用から控除しています。

売上高の増加に加え、商品・飲食原価率の減などにより増収増益

第4四半期会計期間実績(前年同期比較) – 主な増減要因

(億円)

HOTEL ホテル事業	2021年3月期 前年同期	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高	64	130	66	102.4%
ディズニーホテル	57	121	63	110.5%
その他ホテル	6	9	2	36.1%
営業利益(損失)	△ 15	19	34	-

売上高の増

・客室販売数の増による宿泊収入の増

営業利益の増

・売上高の増
 ・人件費の増(△ 12億円) – 前期と当期の賞与計上差額
※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

客室販売数の増加による宿泊収入の増加などにより、増収増益

その他の事業	2021年3月期 前年同期	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高	18	27	9	49.1%
営業利益(損失)	△ 10	△ 2	8	-

売上高の増

・モルルール事業の売上高の増

営業損失の減

・売上高の増
 ・諸経費の減

モルルール事業の増収などにより、営業損失が改善

(億円)

テーマパーク事業①



	2022年3月期 1月発表予想	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高 (億円)	2,060	2,185	124	6.1%
入園者数 (万人)	1,150	1,205	55	4.8%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	14,637	14,834	197	1.3%
チケット収入	7,023	7,049	26	0.4%
商品販売収入	4,468	4,548	80	1.8%
飲食販売収入	3,146	3,237	91	2.9%

入園者数の増

- ・入園者数の制限緩和による増

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・チケット収入はほぼ同様
- ・商品販売収入の増
 - ダッフィー関連商品の増
 - 菓子類の販売再開による増
- ・飲食販売収入の増
 - フードスーベニアの好調による増
 - 東京ディズニーシー20周年関連メニューの増

入園者数およびゲスト1人当たり売上高が増加

(億円)

テーマパーク事業② 	2022年3月期 1月発表予想	2022年3月期 実績	増減	増減率
	売上高	2,060	2,185	124
営業利益(損失)	△ 114	25	139	-

営業利益の増

営業利益の増		諸経費の減	
売上高の増		諸経費の減	約20
商品・飲食原価率の減	約15	販売促進費の減	約5
人件費の減	約10	その他	約15
準社員人件費の減	約5	減価償却費はほぼ同様	
雇用調整助成金*の受給差額など	約5		

*雇用調整助成金の受給金額(見込み受給金額含む)を営業費用から控除しています。

売上高の増加に加え、各費用の減少により、増収増益

当期実績(1月発表予想比較) – 主な増減要因

(億円)

HOTEL ホテル事業	2022年3月期	2022年3月期	増減	増減率
	1月発表予想	実績		
売上高	463	474	10	2.3%
ディズニーホテル	428	437	9	2.1%
その他ホテル	35	37	1	3.7%
営業利益 (損失)	49	62	12	24.2%

売上高の増

- ・客室販売数の増による宿泊収入の増

営業利益の増

- ・売上高の増
- ・諸経費の減

客室販売数の増加による宿泊収入の増加などにより、増収増益

その他の事業	2022年3月期	2022年3月期	増減	増減率
	1月発表予想	実績		
売上高	94	97	2	2.6%
営業利益 (損失)	△ 15	△ 13	2	-

売上高の増

- ・モルレル事業の売上高の増

営業損失の減

- ・売上高の増
- ・諸経費の減

モルレル事業の増収により、営業損失が改善



投資額・償却費(2022年3月期実績/2021年3月期実績)

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2021/3 実績	2022/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	777	608	△ 169	
東京ディズニーランド	116	30	△ 85	駐車場施設、メインエントランスの改修、東京ディズニーランド大規模開発の減
東京ディズニーシー	449	411	△ 38	ピリヴ! 〜シー・オブ・ドリームスへの減
その他	211	166	△ 45	システム投資の減
ホテル事業	267	377	110	東京ディズニーシー大規模拡張プロジェクトの増
その他の事業	38	19	△ 18	モルレル事業の減
(消去又は全社)	-	△ 3	△ 3	
合計	1,083	1,002	△ 80	

(億円)

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2021/3 実績	2022/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	308	365	56	
東京ディズニーランド	140	155	15	前期特別損失への振替、東京ディズニーランド大規模開発の増
東京ディズニーシー	98	125	27	前期特別損失への振替の増
その他	70	83	13	前期特別損失への振替の増
ホテル事業	30	36	5	
その他の事業	27	32	4	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	△ 0	
合計	366	432	66	

※償却費には特別損失、営業外費用の振替額は含んでいません。



投資額・償却費(2023年3月期業績予想／2022年3月期実績)

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2022/3 実績	2023/3 業績予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	608	995	386	
東京ディズニーランド	30	192	162	スペース・マウンテンの増
東京ディズニーシー	411	580	168	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの増
その他	166	222	55	バックステージ環境改善、システム投資の増
ホテル事業	377	190	△ 187	東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテル、 東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他の事業	19	44	25	モノレール事業、劇場事業の増
(消去又は全社)	△ 3	△ 0	3	
合計	1,002	1,229	226	

(億円)

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2022/3 実績	2023/3 業績予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	365	393	28	
東京ディズニーランド	155	162	7	
東京ディズニーシー	125	130	5	
その他	83	100	16	システム投資の増
ホテル事業	36	49	13	東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの増
その他の事業	32	33	1	
(消去又は全社)	△ 0	-	0	
合計	432	476	43	

※償却費には営業外費用の振替額は含んでいません。



2022年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東京ディズニーランド	▶ 4/1 NEW 「ファンタジーランド・フォレストシアター」オープン			▶ 7/2 NEW 「クラブマウスビート」スタート		9/15 東京ディズニーリゾートのハロウィーン
	4/5~6/30 NEW 「ハッピーフェア・ウィズ・ベイマックス」					
東京ディズニーシー	▶ 4/19 「ドリーミング・アップ！」再開		6/1~9/2	「ダッフィー & フレンズのサニーファン」		9/15 東京ディズニーリゾートのハロウィーン
	▶ 4/1 「ビッグバンドビート」再開					9/4~2022/9/3 NEW 「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	9/15~10/31 東京ディズニーリゾートのハロウィーン			1/1~1/16 東京ディズニーリゾートのお正月		
		▶ 11/1 「東京ディズニーランド・エレクトリカルバラード・ドリームライツ」再開	▶ 12/1 「ディズニー・ライト・ザ・ナイト」再開			
東京ディズニーシー	9/15~10/31 東京ディズニーリゾートのハロウィーン	11/9~12/25 東京ディズニーリゾートのクリスマス			1/18~3/30 NEW 「トータリー・ミニーマウス」	
			▶ 12/1 「ディズニー・ライト・ザ・ナイト」再開			
		11/9~12/25 東京ディズニーリゾートのクリスマス			1/18~3/30 NEW 「トータリー・ミニーマウス」	
	9/4~2022/9/3 NEW			「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」		



2023年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
東京ディズニーランド	4/1~6/30	★「ディズニー・イースター」				9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」	
	▶ 4/1~ ☆「ジャンボリミッキー！レッツ・ダンス！」						
	4/1~8/31	NEW	☆「バズ・ライトイヤーのアストロプラスター“アストロ・ヒーロータイム！”				
				NEW 7/1~8/31	☆「スプラッシュ・マウンテン “びしょ濡れMAX”		
東京ディズニーシー	2021/9/4~2022/9/3		「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」			9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」	
	4/1~9/3		NEW	☆「東京ディズニーシー20周年“シャイニング・ウィズ・ユー”			
	▶ 4/1~ NEW ☆「ジャンボリミッキー！レッツ・ダンス！」						
	4/7~6/15		NEW	☆「タフィー&フレンズのビューティフル・レイニーデイズ」			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東京ディズニーランド	9/15~10/31	★「ディズニー・ハロウィーン」		1/1~1/16	★「東京ディズニーランドのお正月」	1/18~3/31	NEW ★スペシャルイベント「名称未定」
		11/8~12/25	★「ディズニー・クリスマス」				
東京ディズニーシー	9/15~10/31	★「ディズニー・ハロウィーン」		1/1~1/16	★「東京ディズニーシーのお正月」	1/18~3/31	NEW ★スペシャルイベント「名称未定」
		11/8~12/25	★「ディズニー・クリスマス」				

★：スペシャルイベント ☆：プログラム
 ※イベントの名称、開催期間および内容は変更になる場合があります。
 ※2022年4月27日時点で公表しているものを記載しています。

連結貸借対照表（実績/前期末）

（億円）

連結貸借対照表

	前期末	当期末	増減
A.資産の部			
流動資産	2,741	2,714	△ 27
固定資産	7,663	8,154	491
資産合計	10,404	10,868	464
B.負債の部			
流動負債	1,213	852	△ 361
固定負債	1,591	2,453	861
負債合計	2,805	3,305	500
C.純資産の部			
株主資本	7,452	7,435	△ 17
その他の包括利益累計額	147	128	△ 19
純資産合計	7,599	7,563	△ 36
負債純資産合計	10,404	10,868	464

【A. 資産の部 464億円の増（4.5%増）】

I. 流動資産 27億円の減

(1) 棚卸資産の減 △ 65億円

II. 固定資産 491億円の増

(1) 設備投資による増 1,002億円

(2) 減価償却による減 △ 441億円

【B. 負債の部 500億円の増（17.8%増）】

I. 流動負債 361億円の減

(1) 1年内償還予定の社債の減 △ 300億円

(2) 未払法人税等の減 △ 64億円

II. 固定負債 861億円の増

(1) 社債の増 800億円

(2) 長期借入金の増 50億円

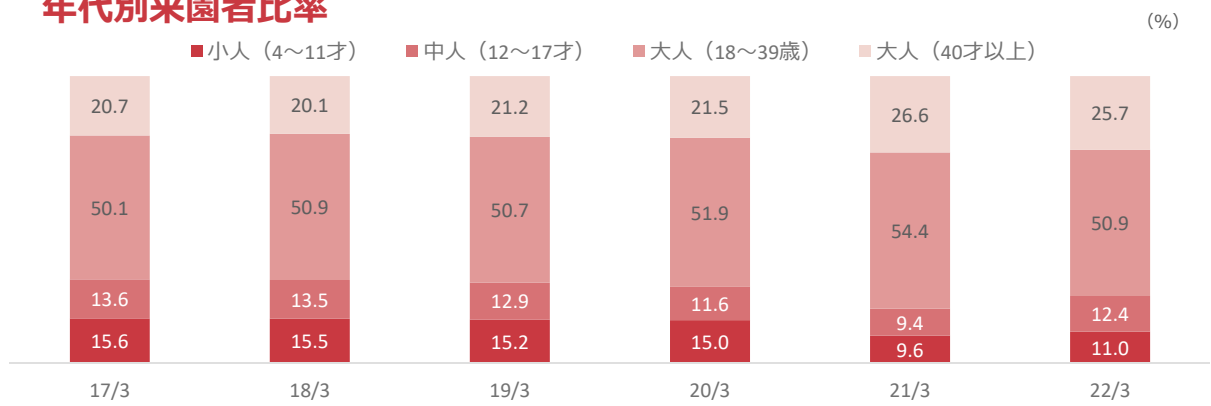
【C. 純資産の部 36億円の減（0.5%減）】

(1) 自己株式の増加による減 △ 44億円

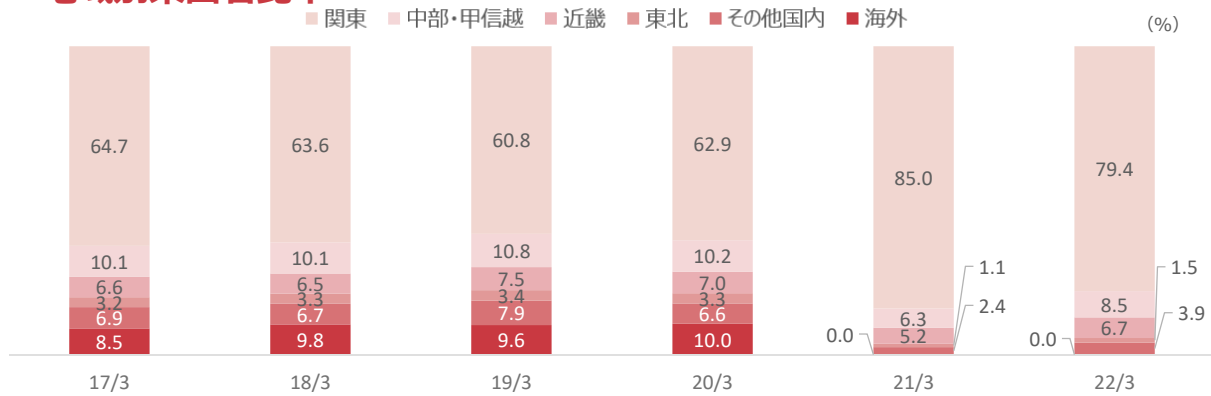
(2) その他有価証券評価差額金の減 △ 17億円

(3) 自己株式売却差益 30億円

年代別来園者比率



地域別来園者比率





資金計画

手元資金*1の推移

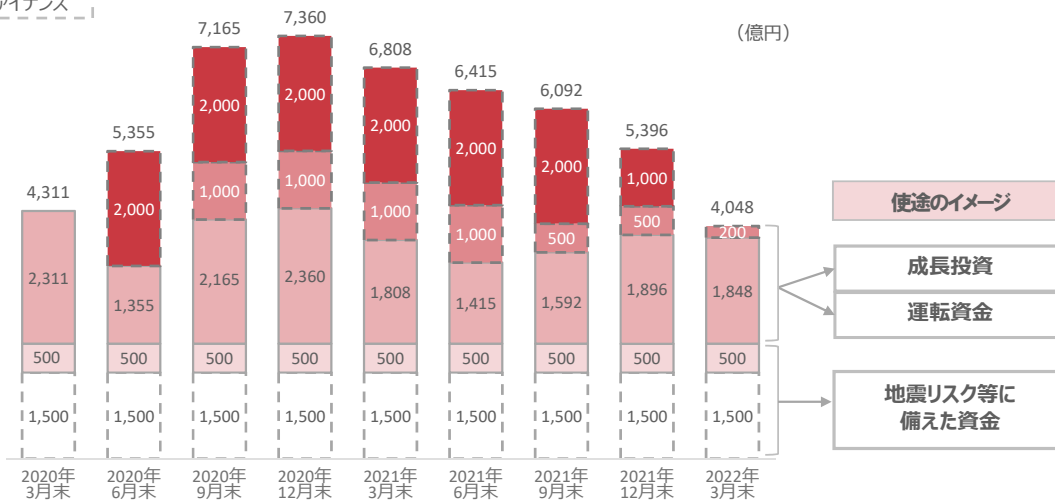
コミットメントライン

社債（未発行）

現預金および有価証券 (2015年3月発行社債300億円[2022年3月に償還]、2020年9月発行社債1,000億円、2021年9月発行社債500億円、2022年1月発行社債300億円含む)

現預金および有価証券 (2019年1月発行社債)

地震リスクファイナンス



連結BS計上額*2	2,811	1,855	2,665	2,860	2,308	1,915	2,092	2,396	2,348
-----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

*1 コミットメントラインと社債（未発行）を含む *2 現金及び預金と有価証券の合計金額



株式会社オリエンタルランド 経理部IRグループ

047-305-2034 www.olc.co.jp

注意事項：

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見直しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。
本資料の転載はご遠慮ください。